東京園芸ニュース(R1年度-5号)

令和元年７月／群馬県東京園芸情報センター

今年も嬬恋村産キャベツの出荷が始まる！
「ＪＡ嬬恋村」キャベツ試食宣伝会が開催！

群馬県ＪＡ嬬恋村キャベツ試食宣伝会
- ■期日：６月20日(木)
- ■場所：大田市場（東京青果・東京荏原青果・東京神田青果の３ヵ所同時開催）
- ■主催：ＪＡ嬬恋村、ＪＡ全農ぐんま
- ■内容：ＪＡ嬬恋村産キャベツのＰＲや試食宣伝会等

■大田市場内３ヶ所で キャベツの試食宣伝を同時開催！

大田市場では、６月 13 日(木)からＪＡ嬬恋村産キャベツの入荷が始まりました。そして、これから JA 嬬恋村産キャベツが出荷最盛期を迎えるにあたり、６月 20 日(木)の早朝に大田市場内の３つの卸売会社（東京青果、東京荏原青果、東京神田青果）で、ＪＡ嬬恋村と全農ぐんまによる JA 嬬恋村産キャベツの試食宣伝会が同時開催されました。

当日は、マルコメ㈱から発売されている「キャベツみそ」を添えたキャベツのざく切りが提供され、試食に使用されたものと同じ「キャベツみそ」のサンプルの配布も行われました。

また、試食の提供の他に、現在出荷されている「はるかぜ」や「嬬恋村高原キャベツ」のサンプルの展示や「キャベツロールかつ」や「キャベツのミルフィーユ」など、キャベツを使ったレシピ６種類が掲載された「つまごい高原キャベツまるごとレシピ」の配布も行われ、日本一の出荷量を誇る JA 嬬恋村産キャベツをＰＲしました。

試食をした市場関係者からは「やわらかくて美味しい」、「やはり嬬恋のキャベツはうまい」等のコメントがあり、JA 嬬恋村産キャベツの知名度の高さと食味の良さを確認することができました。

提供された試食

試食の様子(東京青果)

試食の様子(東京神田青果)

■ 生育は順調で平年並の出荷を見込む！

東京都中央卸売市場におけるキャベツ類の入荷量では、平成 27 年は愛知県が１位でしたが、平成 28 年、29 年は群馬県が１位となりました。平成 30 年についても入荷量は１位となり、53.3 百ｔと過去５年間で最も多い出荷量となりました。平成 30 年の都中央における群馬県産キャベツの占有率は 27.5%であり、２位の愛知県との差は 5.0%となりました。

また、農林水産省の作況調査では、平成 29 年産キャベツの出荷量では群馬県が１位となり、全国の出荷量の 18.5%を占めました。

都中央への入荷量は、平成 26 年と比較してキャベツ類の総量は 105.5%と増加傾向であり、群馬県についても 118.0%と増加傾向で推移しています。しかし、２位の愛知県は 95.1%と減少傾向で推移しています。関東近在産地では、茨城県が 132.8%と増加傾向ですが、千葉県は 98.3%、神奈川県が 101.2%とほぼ横ばいで推移しています。

今年の JA 嬬恋村産キャベツについては、春先の低温や乾燥の影響を受け、生育がやや停滞気味で経過するほ場も見られました。しかし、６月に入り適度な降雨があったことで生育は平年並みに回復し、全体としては順調な生育となっており、平年並の出荷量を見込んでいるとのことです。

キャベツ出荷量上位10産地(H29)

順位	産地	出荷量(t)	比率
1	群馬	236,500	18.5%
2	愛知	232,200	18.1%
3	茨城	104,100	8.1%
4	千葉	102,000	8.0%
5	神奈川	73,200	5.7%
6	長野	64,100	5.0%
7	鹿児島	63,600	5.0%
8	北海道	57,100	4.5%
9	熊本	35,900	2.8%
10	岩手	25,800	2.0%
ー	全国	1,280,000	100.0%

出典:農林水産省 作況調査